

企画指導担当

水産研究部 企画調整事業

金澤 健・田村勇司

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、資源増殖チーム、養殖環境チーム及び北部水産グループの資源増殖チーム、養殖環境チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図った。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案を行った。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実に務めた。

3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図った。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画調整会議（メンバー：企画指導担当総括及び北部水産グループ資源増殖チームリーダー）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部と北部水産グループの研究予算等の調整と運用を行った。

3) 試験研究課題検討会

要望の出された試験研究課題について、行政職員、普及指導員、漁協関係者から課題の必要性、普及方法等について必要な助言を得て検討を行った。

4) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究実施要領並びに大分県農林水産試験研究アドバイザー設置要領に基づき、学識経験者等のアドバイザーを招集して、水産研究部アドバイザー会議を開催し、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 29 及び 30 年度事業について、水産研究部と北部水産グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

刊行物投稿規約に基づき、大分県農林水産研究指導センター研究報告（水産研究部編）を編集、発行し、ホームページでも公開した。

c) 広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA NEWS（アクアニュース）を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。また、北部水産グループのホーム

ページも開設した。(アドレス：
<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15091/>)

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究員と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。また、必要に応じ、部門ごとの研修、現地視察や実習等にも対応した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を7回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算の取りまとめを行った。

3) 大分県農林水産試験研究アドバイザー会議

2019年12月18-19日、2020年1月16-17日及び3月17日に、大分県農林水産試験研究アドバイザー会議を開催し、重要研究課題について専門分野の技術的アドバイスや意見を受けた(表1-1、表1-2、表1-3)。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

2020年1月30日、31日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部から7課題、北部水産グループから6課題、南部振興局から1課題及び大分県漁業公社から1課題の研究発表

が行われた(表2)。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

水産研究部、北部水産グループグループの平成29及び30年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 研究報告

大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第7号を編集、発行し、ホームページでも公開した。

c) 広報紙 AQUA NEWS (アクアニュース)

本年度は、9月に第49号、2月に第50号を編集、発行し、ホームページで公開するとともに、県庁情報センターへ配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。また、北部水産グループのホームページでも漁況海況速報、赤潮情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2019年6月13に北部水産グループ、6月17日に水産研究部が開催した。

普及指導員から出された要望等については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協各地区運営委員長・市町村水産担当課長会議

2019年7月9日に豊後水道北部海区(大分市、臼杵市及び津久見市)及び豊前海区(中津市、宇佐市及び豊後高田市)、7月12日に豊後水道南部海区(佐伯市)及び東国東・別府湾海区(国東市、姫島村、杵築市、日出町、別府市及び大分市)を対象とした県漁協各地区漁業運営委員長及び市町村水産主務課長会議をそれぞれ開催した。

会議において報告した研究情報については表3に示した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

生産者や大学生、団体等職員を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表4に視察受入実績を示した。

表 1-1 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 9 月 30 日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所 まぐろ増養殖研究センター 種苗生産グループ	主任研究員	森岡 泰三	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科生物環境講座藻場生態系保全研究室	教 授	村瀬 昇	学識経験者
国立大学法人 長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 環境科学領域	教 授	井口 恵一郎	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議委員名簿(令和元年 10 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日)

所 属	役 職	氏 名	備 考
国立大学法人 九州大学大学院農学研究院 生命機能科学分野 生物機能分子化学講座 水族生化学分野	副研究院長	中尾 実樹	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 海産無脊椎動物研究センター	センター長	太田 健吾	学識経験者
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 生物生産学科生物環境講座 藻場生態系保全研究室	教 授	村瀬 昇	学識経験者

表 1-3 大分県農林水産研究(水産研究部)アドバイザー会議に付託した研究課題

研 究 課 題 名	担当チーム	研究期間
魚病疾病に対するワクチン等の効果を高める技術の開発	水産研究部養殖環境チーム	令和2～4年度
高級魚キジハタの種苗生産技術開発	北部水産グループ資源増殖チーム	令和2～4年度
人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立	北部水産グループ資源増殖チーム	平成30～令和2年度

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発表課題名	所属(チーム)	発表者
2019年ブリ種苗生産結果から見える課題	資源増殖	研究員 鈴木 翔太
マダコ卵の人工孵化試験と仔ダコの飼育チャレンジ	北部資源増殖	研究員 濱田真悠子
潮間帯を利用したマガキ天然採苗技術の現地実証	北部資源増殖	研究員 森本 遼平
佐伯市蒲江地区におけるヒオウギガイの天然採苗試験	南部振興局	普及員 山本宗一郎
大分県の豊後水道域におけるアオリイカの外套背長組成と成熟	資源増殖	研究員 横山 純一
オニオコゼにおける実用規模での寒冷麻醉法の適用事例	大分県漁業公社	技 師 山本 司
ICT技術を用いた赤潮監視の取組	養殖環境	研究員 井口 大輝
近年の周防灘における <i>Karenia mikimotoi</i> 赤潮発生年の特徴とその予察の検討	北部養殖環境	主幹研究員 岩野 英樹
クルマエビ養殖池における水質環境の変動特性	北部資源増殖	主任研究員 山田 英俊
遺伝子解析を用いた分離菌同定手法の導入の試み	北部養殖環境	研究員 ??岡 宗祐
計量魚群探知機による資源量推定を目指して	資源増殖	研究員 竹尻 浩平
杵築市守江湾における2～3mmサイズの人工種苗と被覆網を用いたアサリ育成試験	北部資源増殖	主任研究員 山田 英俊
カボス生果皮ペースト展着EPを給餌したかぼすブリ	養殖環境	研究員 安原 翔太
新”豊洋”の紹介と今後の運用の可能性	漁業調査船 豊洋	二等航海士 長田 彩

(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表3 県漁協 地区漁業運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績及び研究取組状況の報告内容

開催日（場所）	対象海区	研究取組状況・報告者
2019年7月9日 （大分県臼杵総合庁舎）	豊後水道北部海区	「漁業調査船”豊洋”による海洋観測」 水産研究部栽培資源チーム 研究員 竹尻 浩平
		「Karenia mikimotoi 赤潮の監視体制強化の取組」 水産研究部養殖環境チーム 研究員 井口 大輝
2019年7月9日 （北部水産グループ）	豊前海区	「大分県海域のハモ資源管理」 北部水産グループ資源増殖チーム 主任研究員 白樫 真
		「人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立」 北部水産グループ養殖環境チーム 研究員 古川 あさひ
		「開設された魚病棟」 北部水産グループ養殖環境チーム 研究員 吉岡 宗祐
2019年7月12日 （大分県佐伯総合庁舎）	豊後水道南部海区	「漁業調査船”豊洋”による海洋観測」 水産研究部栽培資源チーム 研究員 竹尻 浩平
		「Karenia mikimotoi 赤潮の監視体制強化の取組」 水産研究部養殖環境チーム 研究員 井口 大輝
2019年7月12日 （大分県日出総合庁舎）	東国東・別府湾海区	「潮間帯を利用したマガキ天然裁砂技術の現地実証」 北部水産グループ資源増殖チーム 研究員 森本 遼平
		「人工種苗ロープの開発によるヒジキ養殖技術の確立」 北部水産グループ養殖環境チーム 主幹研究員(チームリーダー) 畔地 和久
		「開設された魚病棟」 北部水産グループ養殖環境チーム 研究員 吉岡 宗祐

表4 視察等受入実績

対象者	水産研究部		北部水産グループ	
	件数	受入人数	件数	受入人数
生産者	3	31		
団体等職員	1	8	7	31
普及指導員			1	2
大学生	1	81	1	1
小・中・高校生	2	16	2	7
その他	3	74	1	21
合計	10	210	12	62

(注) 文書等により依頼があったもので、人数は概数である